

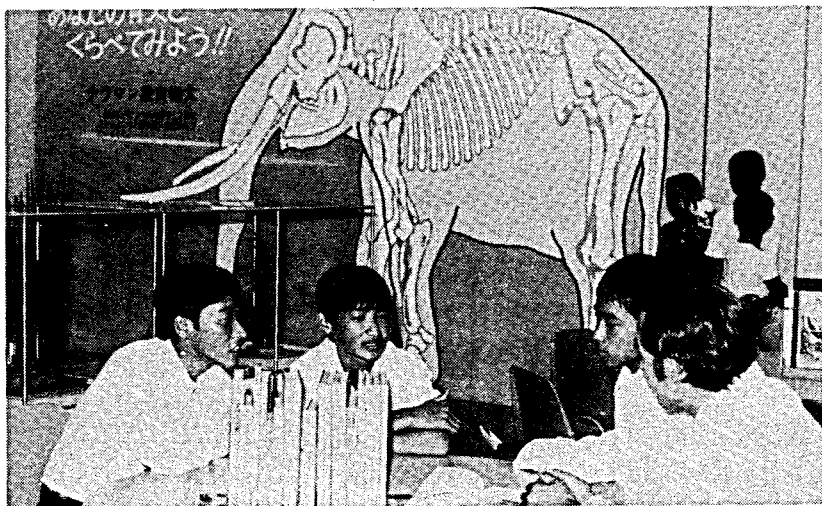
No. 52

1981.

1. 15

# 岐阜の博物館

▽501-32 関市小屋名  
(百年公園内)  
岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL(05752)8-3111(代)  
振替 名古屋 37909



## ボランティア活動の高まりを！

現在、全国的に、定期的にボランティアとして無料奉仕をしておられる方々が多いと思われます。しかし、博物館ばかりでなく、どのような団体や組織でも、ボランティアに対して、高度な知識と能力が要求される時代です。ただ博物館で奉仕活動がしてみたいというだけの理由ではすまされません。外国では、資格試験に合格したボランティアが活動し、入館者達に喜んでらっていると聞きました。日本でも、やがてそうした時代が来るでしょう。現在、生涯教育への認識が高まり、どこの市町村公民館においても、教育活動を勢力的に進めておられます。博物館のみ、旧態依然とはしておれません。

それでは、ボランティアになぜ資格が必要なのでしょう。モンキーセンターでのことです。幼児を抱いた若い夫婦が入館して来られました。夫婦は、出口近くに展示されているツバイの骨格標本をみて「これでもサルかい？」と意外な面持ちでした。子狐のようなこの原猿類の骨格

をみれば、一般の人々が疑問に思うのも普通です。このような場面でこそ、学芸員やボランティアの人の説明が必要で、進化への理解が深まるはず。また小学生が次々と質問します。「日本ザルの尾はなぜ短いのですか？」「日本ザルの尻はなぜ赤いのですか？」大人が思いつかない質問を出します。ボランティアといえども、こうした観覧者の各種質問に対応し得るだけの勉強と、展示の見方、教育的技術等を身につけている必要があります。

ボランティアを必要とする博物館自身及び岐博協こそは、こうした人々への博物館教育を行なうべきです。以前は、「博物館」といえば、展示物に埃がかかり、薄暗い陰気な所というイメージがありました。現在ではこの悪いイメージが打破され、「社会教育は博物館で」と、より多くの人々が勉強される時代を迎え、ボランティアが博物館で活躍される日が近いのです。制度の確立、質の高まりを望みたい。(O.U)

## 串原村郷土館

▽ 509-78 恵那郡串原村大野 1268

TEL (057352)-2333

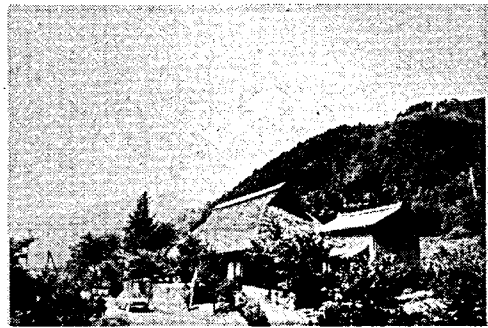
昭和40年、矢作川の上流に多目的ダムの建設が始まり、串原村は川沿いの釜井・漆畑・久木・大野などの耕地や民家70戸が水没することになりました。単に失なわれゆく生活文化財を保存するというだけでなく、ふる里を失う人々の心の痛み、それをいつまでも忘れることなく、在村者・離村者を末永く結びつける絆となるようにと、村をあげて作られたのが、この串原村郷土館です。

水没家屋を代表するものとして、久木の安藤信義家が移築されました。この地方としては規模の大きい農家で、江戸末期から明治初期にかけてのこの地方の代表的な名家の面影を今に伝えてくれています。建物それ自身が、すばらしい屋外展示資料そのものといえます。

館内の展示資料は、生活・生産用具の民俗関係、石器・土器等の考古関係が主です。しかし、何といても見逃がせない目玉資料は、敷地内に移し安置されている石造物の野外展示です。串原村一帯は、馬頭観音・地藏菩薩など石仏が多く、その数は870体余りが確認されています。

それらのうちで、ダム水没地のものなどがこ

(郷土館内の展示)



(郷土館の全景)

こへ移され安置されています。「三十三体仏」など変化に富んだ石仏群に、祖先人の心の安らぎを求めた生きざまが浮かんでくるようです。

奥矢作湖畔に静かにただずまいしている古い農家……建物と展示資料とが一体となって、ムラの生活史を物語ってくれています。隣接の収蔵庫は木造瓦葺2階建土蔵造りで、こちらも、江戸中期の物資貯蔵のようすをうかがわせてくれています。離村者～在村者の心の絆であり、村の郷土館であるだけでなく、都会の喧噪と公害社会からの解放を求めて、この地に行業を訪れる人々にとっても、何かしら得ることの多い精神文化のレジャー施設ともいえます。

土・日曜日・祝日が開館で無料ですが、教育委員会(TEL 2111)へ事前に連絡をとれば平日でも利用できます。また串原村誌、串原の民具、串原の石仏等の出版物も、館内に展示されていますが、これらは実費で購入することができます。

(野外展示の石仏群)



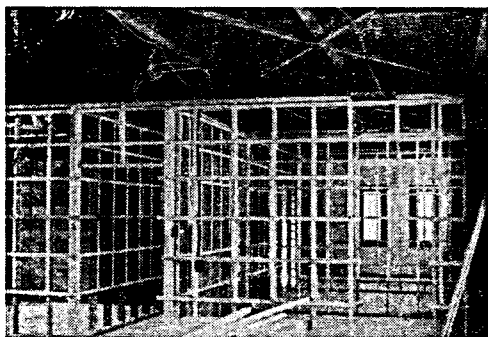
# 飛躍する名和昆虫博物館 研究室・自然学習教室等を新築中

財団法人名和昆虫研究所では、名和昆虫博物館の教育活動の一環として、最近友の会活動が盛んです。単に知識のみの学習ではなく、生きた教材や実際の体験を重視し、人々の心の奥にすばらしい自然の出来事をさざみ込み、それにより自然科学に対する新しい芽を育ててゆこうとの願いから、友の会行事も年間13回を教える充実振りです。現在会員は親子あわせて450名、初夏の虫を訪ねて、夏休みのための昆虫教室、秋神温泉自然観察の旅、夏休みのまとめ教室、秋の鳴く虫を聞く会、チョウで絵はがきを作ろう、春を待つ虫たち、初歩の昆虫教室等々の自然学習会に、それぞれ参加しています。

各種事業の発展とともに、現在施設設備の拡充事業が進展中で、名和昆虫研究所の中核ともなる研究室や学習教室等が新築中です。鉄筋二階建て、1階には、50人収容の教室1室、これに、図書室、研究作業室1. 2. 3、便所、炊事場等が完備され、2階に所長室、小会議室が設けられます。研究作業室1室には、将来は視聴覚機器も導入され、写真、VTR等昆虫の生態記録撮影室になる予定とのことです。

昨年11月から工事に入り本年3月いっぱいでの完成の予定、4月からオープンされます。これにより、財団法人名和昆虫研究所の事業内容は、これまでも増していっそう飛躍的に発展

(工事が進む館内 教室)



充実するものと期待されます。

博物館における常設展示・特別展示、友の会活動等による教育普及事業と背中合わせに博物館の頭脳として忘



れることのできない研究活動について、これまでも、岐阜県内の昆虫分布、特に高山蝶の生息確認、ミヤマカラスアゲハの県内における地域変異、ギフチョウの分布及び地域変異、金華山における昆虫分布、生態調査、エダナナフシアフリカクロコオロギ等の累代飼育、海外資料の収集研究等、幅広い、しかも地域に密着した研究を推進されているが、今回の研究室の新築とともに、さらに若い研究員の活躍が期待され、そうした研究成果を定期刊行物として発刊される方向が出てくるものと思われます。

博物館が、現代社会に欠くことのできない公教育機関であると云われる割には、私立の館園に対しては、現実には、なかなかそこまでの認識の深まりがなく、どこも運営経営に四苦八苦の中で、博物館としての本質を追求し続け、研究活動に裏打ちされた教育普及活動の充実を目指される名和昆虫博物館は、今後が増々期待されます。市町村立の資料館 郷土館 民俗館等が、数多く存在する現実の博物館界にあって、ひとつの模範的な博物館活動、それがここ名和昆虫博物館に生きているといえます。

# ヨーロッパの博物館印象記

関市瀬尻小学校教諭 柴田佳章

私は昭和55年9月30日から10月15日までの16日間、文部省教員海外派遣岐阜県団の一員として、西ドイツ、イギリス、フランスの各国を訪問することができた。学校訪問が主で、博物館などの文化施設はかけ足の見学であったが、得ることが多かった。特に印象の深かったところについて、次に述べる。

## ☆大英博物館（ロンドン）

100年以上の風雪に耐えた大理石造りの大建築には、人類の文明の殿堂にふさわしい風格が感じられた。館内には、エジプト、ギリシャ、ローマなどから持って来られた巨大な石像や石柱が林立して目をみはらせる。5000年も前に栄えた古代エジプト文明の遺跡が眼前にあると思うと、その感激は実に大きかった。黒い花コウ岩のロゼッタストーンには細かい文字が彫られている。これにより、エジプト文字が解読されたという。

城門の両わきに置かれたというライオンは、高さ3m、長さ5～6mもある石造りだ。ひとわき見学者の多いのは、ミイラの部屋であった。木製の棺に描かれた原色の模様美しい。内部に人骨があることを示すX線写真がそえてあるのは、興味深かった。館内にある大英図書館では、シェクスピアの初版本やその原稿、世界各地の貴重な書籍がずらりと展示されていて、溜め息が出るばかりであった。

これらの展示品の中には、大英帝国の強権に



古代エジプトのライオン像

よって持って来られた物も若干はあるが、ほとんどは美術商を通して購入したり、個人のコレクションの寄贈によるものだという。それにしても、すべてがオリジナルであることには、驚くほかはない。よほど強力で息の長い収集活動が続けられているのであろう。

女性ガイドの説明を聞いたが、展示品の解説はほとんど無いので、事前にガイドブックなどで学習しておく、よく理解できると思った。

## ☆ルーブル美術館（パリ）

現在のルーブル美術館は12世紀にセーヌ川を守るための



ためのルーブル美術館（絵に見入る人たち）要塞として造られたのが始まりで、16世紀にフランスワ1世が再建に着手してから300年以上の歳月をかけて完成したものであるという。1982年以来の大改造工事は、今だに続いているとか、ヨーロッパ人の悠揚とした気持ちの表れであろうか。

さて、まず目につくのは、「ミロのビーナス」である。オリジナルが手の届く所に展示されているのだ。絵画にも、美術全集などで親しんでいるものが多くあったが、ジェリコの「メデューズ号の筏」やドラクロワの「民衆を導く自由の女神」などは、実に大きくて、しかも画面からテレピンの臭いがしてくるようで、150年も以前に描かれたとは思えない迫力であった。

ヨーロッパの多くの館が、オリジナルによる教育効果を考えてか、持てる者の自信の表れであろうか、ロープ1本向こうに、正に「本物」を見せていてくれるのには深い感激を覚えた。

# ICOM世界大会からの便り

## 少ない日本からの参加者

岐博協顧問、オリエンタル大学院教授 吉田 幸平

ご無沙汰しています。思えば昭和37年6月、故名和正雄名和昆虫博物館長、郷 浩岐阜城館長氏等と、岐博協を結成してから18年の歳月が流れました。設立に参加した人々も少なくなり、遂に多くの資料館・郷土館が誕生し、その施設数は、日博協の全国一覧表によれば、100を越え、北海道・東京について全国第8位、それだけに協会も新しい人脈、若い人達に継承されるべき時期となりました。

協会に課せられた任務は重く、その責任を感じてこれまでに、博物館学セミナーの実施・機関誌の発行・学芸技術員講習会の実施、あるいは個人会員の協会登録、三県交流会、東海地区あるいは全国大会の支援等、その協会活動は全国の博物館協会等から、極めてユニークな協会として注目され、大学での学芸員養成課程にも大きな反響を与えました。名和正雄館長の死は、協会自体の新たな出発点となり、今後組織の再編成・強化とともに、若い人達に継承され、ますます充実した協会活動が行なわれるものと期待しています。

### 少ない日本からの参加

国際博物館会議は、いわば博物館のオリンピックに相当するもので、UNESCOの傘下であり、3年毎に世界大会が行なわれます。岐博協関係者では、パリの第9回(1971)に本会顧問広瀬鎮、コペンハーゲンの第10回(1974)に筆者、今回第12回メキシコには、筆者と広瀬氏の両人が参加しました。このメキシコのICOMには、福田国内ICOM委員長、鶴田アジアICOM委員の外は、岐博協にかかわる2人だけで特筆すべきだと思っています。国際的意義を持つ協会活動とさえ云えるでしょう。広瀬氏は、自然史と教育文化活動の両分科会で、モンキーセンターの活動を中心に研究発表をされました

が、世界には日本猿を教材として扱ってきたパターンがないだけに、大変人気があり発表後多くの人が彼を訪れました。彼の英語は立派なもので、イントネーションやアクセントは、在米生活中的の黒人やメキシコ人から聞く以上に流暢であり感心しました。私が彼ほどの語学力を身につけるには、まだまだ何年もかかるであろうと、吾が身の弱さを痛感しました。

### すばらしい分科会々場

ICOMは10日間開催され、開会式には必ずその国の最高者が開会を宣言されます。先のコペンハーゲンではデンマークの女王でしたが、今回はメキシコ大統領でした。メキシコ・シティーの公会堂大ホールが会場で、陸軍歩兵部隊一小隊が着剣でホールを守衛し、ホールの中は、参謀肩章の連中が護衛していました。国際会議だけに、入口では同時通訳用のエヤホーンが渡されました。コペンハーゲンでは、英・独・仏・スペイン語の四ヶ国語でしたが、今回の各会場では、英・仏・スペイン語の三ヶ国語でした。約3,000人が各国より参加、開会式では日本からは、鶴田・広瀬・私の三人だけの参加でした。

私は、教育と文化活動(Education and Culture action)の分科会に連日参加して、各国博物館人の研究発表を聴きました。スライドを使用しての発表が主力ですが、私たち協会が長年セミナーをやってきた立場からみると、特別なものはなく感銘を受けるものは殆んどありませんでした。教育と文化活動の分科会々場は、メキシコ国立人類学博物館で、これは大阪にある国立民族博物館の約3~4倍の大きなものです。メキシコ・オリンピックに焦点をあわせ、ユネスコの国際博物館会議のメンバーが、設立に関与しただけに、見るものに大きな感銘を与えました。国立人類学博物館(Museo

Nacional de Antropologia)は、人類学・考古学上、世界的に貴重な博物館で、建物・展示内容とも必見に値するものでした。11の陳列室が並び、見学は時計と逆廻りに進み、人類学の概説からメソアメリカの文化圏の概要、テオティワカン、トルテカ、アステカ、オアハカ、メキシコ湾岸、マヤ、メキシコ北部などの区分で、古代メキシコ諸文化の人類学考古学或はメキシコインディオの民族学的な展示が行なわれていました。また、メキシコの持つ古代文化とスペイン植民地文化等の混血児文化を色々と教えてくれました。

#### 高山病の中で会議の連続

このICOMの開催中には、現地探訪も生まれ、太陽のピラミッド・月のピラミッド等の各分科会毎に見学会も組まれていました。期間中は、各国代表者のブルーのネームプレート(縦10cm

～横5cm)を着けていると、バスも無料で色々な招待もあり、国立芸術院の民族舞踊も見学しました。朝から夜8時～9時頃まで会議や分科会があり、多くの博物館見学はできず、一日、広瀬氏と博物館巡りを計画するのがやっとでした。プログラムの変更がよくあり、注意して毎日インフォメーションに行かないと、なかなか進行がつかめないのです。昼休みは2～3時間が常識です。また気圧が薄く、富士山の8合目位の位置で、最初のカクテルパーティーの招待では、酸欠で倒れて鶴田・広瀬両氏に助けられ、ソ連人のバスの席を譲ってもらってホテルへ帰りました。気圧が低く、午前2～3時頃には必ず一度目が醒め寒く(日中は猛暑)、生活に慣れるのに苦勞し、カゼをひいての参加で、広瀬氏も頭痛で苦しみ、酷しい参加となりました。

## 書評

岐阜県博物館学芸員小野木三郎著

### ぼくとわたしの博物誌 A5判

教育出版文化協会

井波植物研究所長 井波一雄

図がたいへんすばらしい。じつに温味が漂う手の仕事は、今の時代には亡びた精密画でしょう。写真ばやりの今日、極めて珍らしいことです。文章のすみずみに、自然保護と資料への愛情・調査の空白などが訴えられていて、このような心をなんとか今多い植物人とか、植物愛好者に、一人でも多く知ってもらいたいと思います。

採集ばかりに目がくらんで、その資料としての大切な意味が全く理解されていないのが現実のようです。フクジュソウの項であるように、保護指定すると、かえって消滅するという日本の現状は、日本人と自然観について、再考三考の要があります。誤った考えの人にこそ、こうした良書は読まれるべきだと考えますのに、山草のカラー写真集本は手にしても、この種の本は手にされないとこに問題は大きいと嘆じます。昆虫界などでも全く同じこと、いやそれ以上

上の危機状態にあるといえるでしょう。

環境庁の日本の重要な昆虫類調査報告東海版でも、業者マニアの乱獲が指摘されていることなど、

どうしてよいのか手のつかぬ問題で、植物でも同じことです。地方の各種同好会が、昆虫植物とも、その悪の手引きをしていることが多いのも、指導者の古い体質であることが大きく起因しています。本書は、こうした古い採集オンリーの頭の人に、いささかでも注射になればとも

### ぼくとわたしの博物誌

小野木三郎



念じます。確かな調査研究に裏打ちされた博物館での自然教育に、情熱を傾けている著者ならでは、家庭必備図書といえます。

松枝小学校長 宮崎 博

博物館そのものの歴史が浅い日本では、まだまだ一般人の博物館利用は下手だといわれています。博物館がどんなものであるのか、何をしているところなのか、社会教育機関としての特殊な諸機能が、まだまだよく知られていないために、利用する側にもとまどいがあるのでしょうか。そんな折、本書は、中学生を読者対象として書かれた博物誌とはいえ、大人の人にこそ特に子を持つ若い母親にも読んでほしいものと思います。

植物にまつわる自然界の不思議さ、自然を知ることの楽しさを伝える博物誌が主体ですが、後半にまとめられた博物館の話、県内の自然関係の博物館案内も、要領よくまとめられており、

野外体験と、それをより深いものにするための学習の場としての博物館利用を教えられる好著です。

やゝもすると自然を忘れ、自然体験の貧弱なままに育つ現代の子どもたちに、もう一度身近な自然に目を向けさせてやるのが、今日の親の務めであることを思うとき、ひとりでも多くの人々に読まれることを期待したいものです。

本書は自然に親しみ、自然を知ることの大切さ楽しさを教えてくれます。自然を敬い、自然を科学する楽しさを教えてくれます。実物を通して体験的に知ること、勉強のほんとうのあり方を考えさせてくれます。自主的な理科学習に役立つ博物館の上手な利用法がわかります。

ご注文は ▼ 500 岐阜市柳ヶ瀬7  
教育出版文化協会 TEL0582-63-8955 へ  
A5版、写真16頁本文216頁定価1,200円

## 県内 ニュース

### 岐博協セミナー 盛会 /

本年度第3回目のセミナーは、去る11月14日(金)岐阜県博物館を会場に開催されました。特別展「蓑虫山人」の開催中で、椋山女子学園大学教授 安藤直太郎氏を講師に、先生から豊富な研究実績や蓑虫山人像等についての講演をいただき、特別展展示作品の鑑賞ともあわせ、実物を眼前にした実り多き学習会で、参加者約60名と盛会でした。

### 高山陣屋 不浄門とへい完成 /

高山陣屋復元修理環境整備事業は、本年度から四か年計画で第二次事業に入りました。その第一弾として、不浄門・へいが完成し一段と充実した内容となりました。不浄門は高さ約2.4メートル、間口2.4メートル、へいは二段式石積みで高さ2.1メートル、総延長約30メートルで、材料は総ヒノキ、新観光名所になりました。

### 各務原市炉畑遺跡の縦穴式住居修復中

鶯沼三ツ池地区にある県史跡「炉畑遺跡」に復元されている縦穴式住居は、傷みが目立ってきたために、順次建て替えられる計画で、とりあえず二基が修復される。昨年11月から作業が進められ、一基が完成、本年度中に残る一基も建て替えられることになっている。

### 神岡鉱山資料館で鉱石資料充実中

神岡町の高原郷土館の一角をなす鉱山資料館では、神岡青年会議所の提唱を受け、三井金属神岡鉱業所の全面的な協力を得て、全国各地から金・銀・銅・亜鉛等の鉱石を収集、現在までに貴重な資料約40点が集まった。資料館の充実、価値の高まりをねらって、これらの鉱物が一堂に展示され、3月15日から一般公開されるが、資料収集は更に継続させ、学習と観光の両面からの充実策を構じていく予定です。

## 古陶館 平和通りへ移転

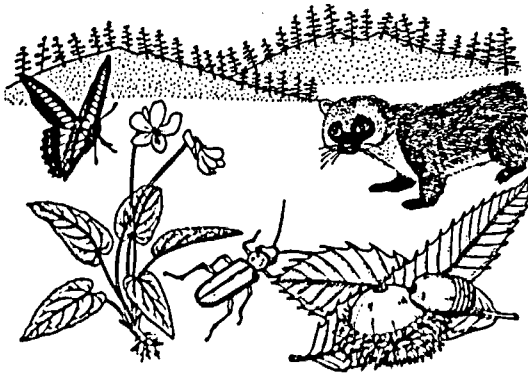
ナイト・ミュージアムづくりを抱きながら、殿町で古陶館を公開されていた早瀬雅啓氏は、新たな構想のもとに、お客ともどもナイト・ミュージアム建設をしていこうとの願いをこめて、岐阜市平和通りに移転、新装オープンされました。新しい住所は ▼500 岐阜市金町1の8  
TEL 0582-66-5930

## 資料紹介「百年公園の動植物」へどうぞ

岐阜県博物館では、来る3月1日～31日まで上記資料紹介を開催します。百年公園は、都市近郊に残された里山の緑で、そこには、気づかないだけで思いのほか豊かな自然があります。

今日のように、機械文明・都市文明が進展すれば進展するほど、こうした身近な自然の価値は見直される時代となりました。自然への関心を高め、自然を正しく理解していただくための基礎として、実物標本・写真・図表等によって百年公園内の動植物を紹介します。

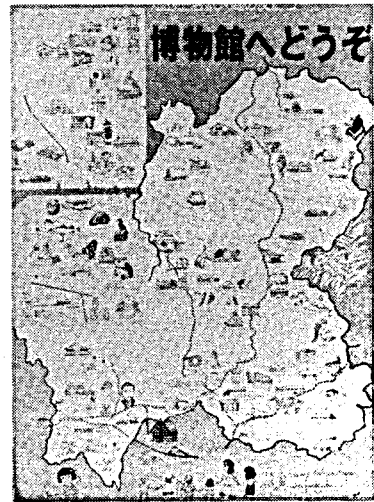
早春の家族連れの行楽に、ぜひお出かけ下さい。通常の入館料のままでご覧になれます。



## 博物館へどうぞ ポスター完成

岐阜県内の博物館及び類似施設を紹介した絵地図ポスターが完成しました。とりあえず県内の公共施設等へ配布中、多くの人々に県内の諸施設を利用されるよう協会の広報活動のひとつ

としての事業です。6年前に発行の単色刷りから発展し、今回は三色刷りで発行しました。



## 美濃陶磁歴史館の資料 欧州へ

土岐市立美濃陶磁歴史館では、イギリス・オックスフォード大学付属のアッシュ・モレアン美術館からの要請に応え、元屋敷窯から出土した黒織部茶わん、美濃伊賀水差しなど同館収蔵の古陶器類を、研究用及び展示用に貸出しました。展示会は、「志野と織部の古窯」で、アッシュ・モレアン美術館では2月1日～3月14日間、オランダのダロニゲル美術館では、3月22日～4月18日間開催され、美濃焼がヨーロッパに紹介されます。

## 編集後記

◎吉田先生から、ICOM現地より協会へお手紙をいただきましたので、全文載せました。世界平和は博物館から……を思い起こしています。

◎記録破りの積雪で、異常気象が異常でないのでは……とさえ思えてきます。奥美濃飛騨地方の館園の方々には、心より豪雪のお見舞を申し上げます。

◎次号へもご寄稿下さい。 (S.O)